

平成29年度 第1回釧路市総合教育会議

日 時：平成29年5月30日（火）11：30～12：00

場 所：第3委員会室

構 成 員：蝦名市長、山口教育委員長、松尾教育委員、種村教育委員、小出教育委員、林教育長

事 務 局：岡本総合政策部長、高木学校教育部長、高松教育指導参事、岡部生涯学習部長、
平山総合政策部次長、津田学校教育部次長、西村学校教育部次長、宮下生涯学習部次長、
土江田総括指導主事、厚海都市経営課長補佐、佐々木総務課長補佐、
長尾都市経営課主査

関係資料：資料 教育大綱の策定について

1. 開会

2. 市長挨拶

蝦名市長)

- ・大変お忙しい中、教育委員会の皆様にはお集まりいただき感謝申し上げます。
- ・平成28年2月の総合教育会議での考え方では、「教育推進基本計画」および「社会教育推進計画」この2本の計画があるということで、教育大綱の代わりとしてしっかりとやってきた。
- ・29年度でこの両計画が切れるということで、平成30年度からの新たな教育大綱を進めていこうとしていたところ。
- ・首長が総合教育会議に参加することは義務になったわけだが、この地域全体のこと、これは人材育成ということにつながっていくという観点で、幼児教育、小、中学校の義務教育の部分、それ以外の塾や私学、そして高校、私立高校、専門学校、短大、大学、こういった大きい枠の中で総合教育会議に首長が入っている意味があるということだと思っているのでしっかり進めさせていただきたい。
- ・ぜひとも教育委員の皆様には、地域全体のことを踏まえた中で総合教育会議としてやっていくということと、教育大綱の策定に、ご尽力、お力添えいただきたいと考えており、よろしく願い申し上げます。

3. 議題

(1) 教育大綱の策定について

- ・平山総合政策部次長より、資料に基づいて説明

<以下、意見・質問等>

山口教育委員長)

- ・市長より義務教育だけにとられるのではなく、釧路市全体を通して幼児教育から義務教育を経て、高校教育そしてさらには高等教育である大学、専門学校を含め、教育大綱を機能するような形が大切であるとお話があり、そのとおりだと思う。

- ・そのような教育大綱ができあがって、教育活動がダイナミックに展開されたなら、保育園、児童館を所管するこども保健部、家庭教育に関わっている教育支援課など役所内のセクションの連携が、より密に機能するようになると思う。
- ・釧路にある大学の学生は全国から来て生活をしているので、その学生に釧路の良さを正しく、深く理解してもらい、全国に散らばってってもらうことが非常に大切。そのような考え方を大学等で積極的にアプローチしていけることにもつながるので、市長の挨拶を体現するような教育大綱を是非つくっていただきたい。

林教育長)

- ・まさにそのとおりかと思う。その中核として、小、中学校の義務教育をしっかりとやっていかななくてはならないということで、今年度最終年度となる「教育推進基本計画」、「社会教育推進計画」の策定にあたり、しっかりと議論を重ねながら、関係団体からもご意見を頂戴してまいりたい。
- ・願わくば、観光立国ショーケース、観光立国という言葉があるが、「教育立国」釧路、そういったようなこの地域が発信できればよろしいことだなと考えている。

蝦名市長)

- ・検討の初めの段階で、高校でいえば道教委、高等教育で言えばそれぞれの大学などから、話を聞く場面があればいいかと思う。もちろん義務教育のところは市としてしっかりと作っていくが、偏った情報で考え方をまとめて進めていくと、地域全体の教育としてなかなか見えてこない部分がある。また、話を聞くことで刺激になると思う。

種村委員)

- ・2020年度から大学入試が変わり、特に英語の試験科目は民間のペーパー試験が導入される予定。
- ・実際今度は英語ではスピーキングが入ってきて、色々考えて英語で主張する。そういう力は小さいときから話して覚えていくもので、小、中学校がどんどんスピーキングを入れるということを考えていかなければならない。
- ・大学の面接試験、また公務員の二次試験では人間性を見られるようになってきており、自分を主張出来るような教育、コミュニケーション能力を養う教育が必要だと思う。

山口教育委員長)

- ・これだけ入試制度が劇的に変わっていくということは、親の方が大変かもしれない。

林教育長)

- ・実際に次期学習指導要領も「深い学び」、「コミュニケーション能力」、「表現力」というところに重きを置いており、地域の大人が教育に関心を強く持つ地域であってほしいと思う。

松尾委員)

- ・まずは学習出来る家庭環境が大事。地域皆で育てる、バックアップできるという家庭環境が大切。
- ・家庭の中がしっかりとしていなければ、絶対に勉強の方に向かないと思うので、かしこい家庭づくりへの地域のご助力というところも力を入れてもらいたい。

山口教育委員長)

- ・ 釧路市の児童館のシステムは他都市に比べて充実している。学校から家庭に帰る途中に子どもたちが生活する児童館の機能、これはすごく重要。
- ・ 現在の児童館は遊び中心でそのためのスタッフ、体制であったが、児童館の中で子どもたちが、学校でやり残した宿題や、理解できなかった授業を教えてもらうなど、そういう機能が生まれたら、劇的に釧路のこどもの学習向上につながると思う。
- ・ そのための体制にはマンパワーなども必要になってくるが、一朝一夕にはできない。せっかく良いシステムが出来上がっているのだから、これを何とか機能させてやるような形が出来れば、そういったことも教育大綱に触れられれば素晴らしいと思う。
- ・ 児童館で今働いている方々にこのような考え方をストレートにお伝えすると私たちに求められてもできないということになるかもしれないが、徐々に改善していくことによって可能になるのではないかなという気がする。

松尾委員)

- ・ 各館での対応は違うが、宿題や家庭学習などの時間を作っているところもある。

小出委員)

- ・ 英語の幼児教育であれば、英語教室に通う方もいらっしゃる。そのような差があるとしたら、市を挙げて誰でも同じように学習を受けられることが実現できればよいことだと思う。
- ・ 市全体で保護者の声を吸い上げ、市全体として一緒に考えていけたら保護者としては有難いことだと思う。

山口教育委員長)

- ・ 先日新聞に子どもが英語の資格を取得する条件の記事があった。大都市では資格を受ける会場がたくさんあり、環境は恵まれているが、過疎地では資格を取得する機会が閉ざされている状況である。これを打開していかなくてはならない。
- ・ 大学入試でも今後、英語の試験が完全に削除され、取得資格のみで判断される方向にあり、釧路市でも資格が取得できる機会を作っていかななくてはならない。

蝦名市長)

- ・ TOEIC は今後 3 回、実現出来るよう、緑ヶ岡の方の会場を確保している。

岡本部長)

- ・ 皆様よりいただいた意見を踏まえ、教育大綱の策定の方向性について、今後、大綱の策定に向けて進めていきたいと考えているが、総合教育会議スケジュール等含め、ご了解いただいたということよろしいか。

<異議なしの声>

次第4 その他

なし

岡本部長)

- ・ これをもって、平成28年度 第2回 釧路市総合教育会議を終了とさせていただきます。
- ・ 次回の総合教育会議の開催については、皆様と調整させていただき、後日改めて事務局よりご連絡させていただきます。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして感謝申し上げます。

(了)